



# 夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第17号(R4. 7. 1)

今週、九州北部は梅雨明けしました。福岡管区気象台の観測史上最も早い梅雨明けを記録しました。連日、真夏日が続く熱中症を心配していますが、ダムの水量や電力供給も気になるところです。

さて、7月に入り明日と明後日は中体連宗像区大会が最も多く試合が行われる週末になります。一方、暑い中でも集中して学習に取り組む授業風景が見られます。まさに、河東中は文武両道で頑張る姿が見られます。1学期も学校登校日はあと12日となりました。最後まで、元気に過ごしていきましょう。

## 授業研修の風景

前号でお知らせしましたように、本年度の授業研修を始めました。今週は、ベテランの川口先生が公開授業を行い、若手教師に授業のコツを伝えてくれました。

## 川口先生(社会)

宗像地区で38年にわたって授業をしてこられた川口先生。その経験から若手教師に伝える授業技術をたくさん公開していただきました。



9年1組で行われた社会科の授業。戦後の日本の民主化がどう進められたのかをGHQが行った民主化政策を具体的に検討する中で考えました。財閥解体や農地改革など8つの政策を各グループで一つずつ調べて全体に発表しました。エキスパート学習からジグソー学習への転換が見られました。

### 【「めあて」を大切にする福岡の授業文化】

川口先生の授業のすばらしさの一つに、適切な「めあて」の提示があります。めあては、50分の授業のゴールを示すものであり、授業の終わりに何ができて何がわかるようになればいいのかを指し示す羅針盤です。生徒のみなさんの学習意欲をわき立たせ、学習の方向を示してくれます。良いめあてから良い学習が生まれます。

この日の川口先生のめあては、「GHQによる日本の民主化政策について、各班の意見を通して様々な視点から比較して考えよう」というものでした。この単元でよくあるめあては、「戦後の民主化政策を調べよう」などです。どこが違うのかというと、川口先生のめあては、めあての3要素があります。学習内容、学習活動、学習方法の3つです。学習内容は戦後の民主化政策であること。学習活動として、各班で政策を検討すること。そして、学習方法として政策を様々な視点から比較するという方法を取る。つまり、川口先生は授業のはじめに適切な課題を提示して、どうやって考え、この時間何を学ぶのかを明示したわけです。これを課題解決学習と言います。

ちなみに、「めあて」は福岡独特の授業文化で、他県にはあるようでないものです。県によっては、「テーマ」や「目標」として提示する県もありますが、福岡のように効果的な授業のフレームワークとしているところは少ないようです。福岡では、この20年で小中学校に定着してきました。生徒のみなさんも先生方も大切にしましょう。

## 第2回かとう学園運営協議会が河東小で開催されました

6月29日(水)18:30より、学園運営協議会が河東小学校で行われました。今回は、自立・協働・創造の3つの視点で、かとう学園の子どもたちにどんな姿を期待するか、というテーマで熟議を行いました。地域の方からは、学園を卒業した高校生が下校の際に出会うと自転車から降りて挨拶してくれたり話しかけてくれたりする姿などが話題にあげられていました。次回の第3回協議会は、10月7日(金)河東中学校の授業参観になります。



## 何が勝敗を分けるのか？

～ 甲子園常連校・埼玉浦和学園高校野球部前監督、森士さん ～

宗像区夏季総合体育大会が真っ盛りです。区大会は、明日2日(土)に最大の試合数が予定されています。本校の部活動では、明日9つの部が大会に臨みます。

埼玉県浦和学園高校野球部の前監督であった森士(おさむ)さんのインタビューに答えた言葉を紹介しましょう。森監督は、浦和学園で30年間野球部を指導され、全国制覇も経験されている方です。昨年夏の大会を最後に引退されました。長年、厳しい勝負の世界で生きてきた森監督が、「何が勝敗を分けるのか?」ということ



を明確に答えています。「私は負けたら終わりという勝負の世界にずっと身を置いてきた。その中で、何が勝敗を分けるのかと考えると、それは瞬間的集中力の継続につけるのではないかと思う。」

つまり、一試合の中で様々な場面・状況の中で瞬間的に自分の持てる力をどれだけ集中して出せるかが大切だと言うのです。しかも、その集中をどれだけ継続できるか。このことに専念していくことが勝利につながると言います。試合の中で、いい流れの時も悪い流れの時もありますし、チャンスもあればピンチもあります。そうした一瞬一瞬に、状況に応じてどう集中していくのが大事だということです。自分もチームもその瞬間に集中することに全力を傾けるべきだと言うわけです。

森監督はこう続けます。

「私はよく生徒たちに、野球とは人生一生のドラマを2時間に凝縮したものと言っている。その時その時の決断が後の人生を大きく左右するように、野球の試合も一瞬のパフォーマンス次第で状況は目まぐるしく変化していく。何百通りもある組み合わせの中で、目の前の一瞬をいかに集中できるか。そこでとっさの判断をあやまったり、流れを読み間違えると勝機を逃しやすい。」

試合中、試合は待ってくれません。その時、その場所でどう動きどう対応すべきかを一瞬で判断していくことの連続です。エラーやミスをしても、気持ちを立て直す時間がない時もあります。それでも次の動作を決めていかなければなりません。逆に、いい流れの中で油断することも禁物で、さらに流れをよくする動きをしなければなりません。要は、どんな状況の中でも集中することです。

浦和高校野球部には、3つのモットーがあるそうです。

- 一、自分が自分を高める責任
- 二、後輩を育てる責任
- 三、組織全体を高める責任

再び、森監督の言葉です。

「チームづくりの中でまず求められるのは、自分が自分を高めること、これは下級生であっても上級生であっても同じだ。チームスポーツでよく使われる標語に、One for all, all for one.(一人はみんなのためにみんなは一人のために)とあるが、これに最後に続く言葉は、but one for one.(しかし、自分が自分のために)である。一番は自己責任であり、自己責任なき仲間意識などは無意味である。」

最後はきびしい言葉ですが、きびしい勝負を生き抜いた名将だから言えることでしょう。チームに頼るのではなく、一瞬一瞬を集中して判断する個々のプレイヤーの責任感の大切さを言っています。そこに本当のチームワークが生まれるというわけです。明日明後日の中体連での河東中生の活躍をみんなまで応援していきましょう。選手のみなさんの健闘を祈ります。